

水田をフル活用した産地収益力向上による 水田農業の持続的発展について

【担当省庁】農林水産省

中山間地域が約 7 割を占める京都府の水田農業の持続的発展には、米と地域特産物の需要動向に応じた水田フル活用による産地収益力の向上が必要なことから、以下の措置を講じていただきたい。

○産地条件や生産コストを考慮した適正な価格形成制度の実効ある運用と、需要に応じた米の生産に当たって、供給過剰に伴う米価下落に備えた新たなセーフティネットの整備など、安定的な所得確保に向けた制度の早期実現

○戦略作物の生産を支援する「水田活用の直接支払交付金」については、米価高騰により作付面積が減少している加工用米(酒米)への助成単価の増額と、令和 9 年度に予定されている水田を対象とした支援から畑を含む作物ごとの生産性向上への支援に転換後も、水田への支援水準を維持するための予算の拡充

【現状・課題等】

■適正な価格形成制度の実効ある運用、米価下落に備えたセーフティネット整備

- ▶ 京都府の農地は、水田が約 8 割を占め、そのうち約 7 割が、平地に比べて生産コストが高い中山間地域に位置。
- ▶ こうした地域において経営を継続していくには、地域の実態を踏まえた生産コストに見合った価格設定が必要となる一方、流通事業者や消費者の米離れを引き起こさないよう、理解醸成を進めるなど、実効性のある法制度の運用が必要。
- ▶ 需要に応じた米の生産に当たっては、生産者が持続的に営農できるよう米価下落による所得減少に対応できる新たなセーフティネットの整備を併せて提示すること。

■水田活用の直接支払交付金の制度見直し

- ▶ 京都府では、酒米、小豆など京都府特産物の生産者に対して、交付金を活用して、地域の特色を活かした魅力的な産地づくりの取組を支援してきたところ。
- ▶ 水田政策の見直しに伴い、交付金を、水田に限らず畑地を含めた作物ごとの生産性向上等への支援に転換する制度見直しについて、水田面積の割合が高い地域実態に配慮し、これまでの支援の充実・強化が図られるよう、地域との十分な意見交換を行った上での制度設計と十分な予算を確保いただきたい。
- ▶ 主食用米の価格高騰は、酒造好適米や加工用米「京の輝き」等を原料とする酒造業者などの加工業者に大きな影響を与えていることから、原料米生産の継続に繋がる十分な財政支援を講じること。

京 都 府 の担当課	農林水産部 農産課(075-414-4953)
---------------	-------------------------

【国の事業等】

■概算要求〔農林水産省〕

- ▶ 合理的な価格形成 9.3 億円（令和 7 年度予算 0.6 億円）
食料の自給的な供給にむけて、合理的な費用を考慮した価格形成及び消費者への理解醸成を図る関係者の取組を後押し
- ▶ 水田活用の直接支払交付金 2,960 億円（令和 7 年度予算 2,870 億円）
食糧自給率・自給率の向上に資する麦、大豆、米粉用米等の戦略作物の本作化とともに、地域の特色を活かした魅力的な産地づくり、産地と実需者との連携に基づいた低コスト生産の取組、畑地化による高収益作物等の定着等を支援
- ▶ 経営所得安定対策等推進事業費 73 億円（令和 7 年度予算 71 億円）
農業再生協議会が行う水田収益力強化ビジョン等の作成・周知や経営所得安定対策等の運営に必要な経費を助成

■食品等の持続的な供給を実現するための食品等事業者による事業活動の促進及び食品等の取引の適正化に関する法律（食料システム法）

- ▶ 計画認証制度は令和 7 年 10 月に開始。価格形成に関する制度は、令和 8 年 4 月以降に開始予定

【京都府の取組】

■「京の米」ブランド力向上対策事業 （令和 7 年度予算 7,068 千円）

- ▶ 京都府オリジナルブランド米「京式部」のブランド化を戦略的に進めるとともに、「京の米」の高品質化と知名度向上を推進し、販路拡大を展開

■京の地域特産物応援事業 （令和 7 年度予算 1,660 千円）

- ▶ 地域営農組織等が小豆・黒大豆、小麦、そばなどの地域特産物の生産に係る農業機械の導入や実証活動を支援

■主要農作物種子採種事業 （令和 7 年度予算 3,343 千円）

- ▶ 「京都府主要農作物種子生産基本方針」及び「京都府主要農作物種子生産及び供給事業実施要領」を整備し、原種生産を行うとともに、種子の生産・供給